

概況(図1・2,表1)

8/2~8/4に房総丸(110ト)で沿岸定線観測を実施した。親潮系水の南下状況を把握するためにK1~K7の7定点を追加して観測した(図1)。8/3の海況は図2のとおり。観測時における黒潮の離岸距離は表1のとおり。今回の結果は、茨城県水産試験場が実施した観測結果(期間:8/1~8/4,調査船:ときわ)も加えている。

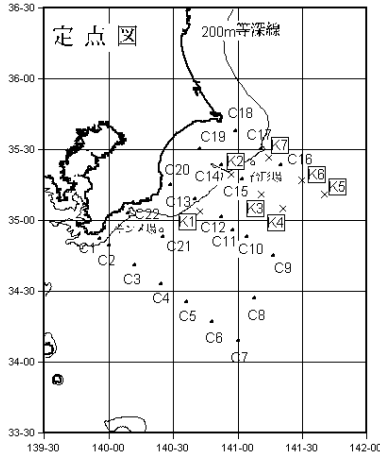


図1 定点位置

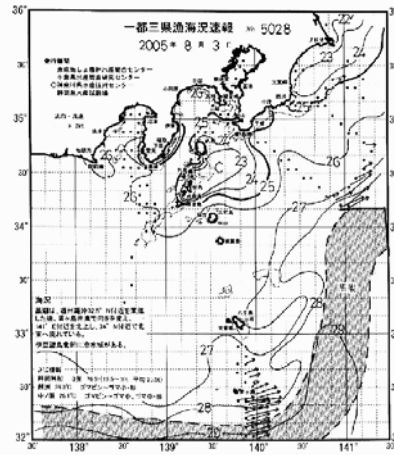


図2 8月3日の一都三県漁海況速報

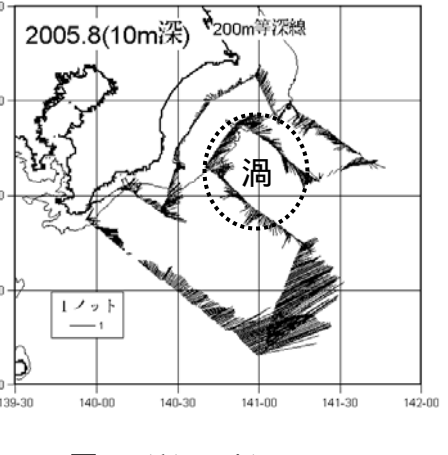


図3 流況(水深10m)

表1 房総沖の黒潮離岸距離(2005年8月)

基点・方向	距離(マイル)	階級
野島埼・南東	70	やや離岸
太東岬・南東	(66)	-
犬吠埼・南東	(72)	やや離岸

\*(数字)は海洋速報(海上保安庁海洋情報部)より

表2 水温の評価(2005年8月)

水深(m)	外房海域			銚子・九十九里海域		
	水温	年間偏差	評価	水温	年間偏差	評価
0	25.0	-0.5	平年並	24.7	0.0	平年並
50	17.24	-1.66	平年並	17.03	-1.85	やや低め
100	14.48	-1.80	やや低め	14.00	-1.42	平年並
200	10.80	-1.52	やや低め	10.81	-0.96	平年並

\*水温は各海域の評価点の平均値

流況(図2・3) 2ノット以上の流れは、野島埼南東方60マイル以上の沖合域付近にみられ、太東岬沖~横芝沖では0.5ノット前後の時計回りの渦がみられた。

水温(表2,図4・5) 先月は両海域ともに「平年並」~「やや高め」であったが、黒潮流路が離岸したため、今月は「やや低め」~「平年並」になった。鉛直断面図では、犬吠埼南東沖~太東岬南東沖の大陸棚斜面250~600m深付近に4以下の水温がみられる。

塩分(図4・5) 海面~200m深にかけて先月は33.4~34.8であったが、今月は33.0~34.8であった。海面では野島埼沖のC2と太東岬沖のC13でそれぞれ32.946と33.292の低塩分水があり、C2とC13の間には34.1台が沿岸に差し込んでいる。海面の低塩分水は、降雨(7/26に台風上陸)に伴う河川水の流入等の影響によると考えられる。鉛直断面図では、犬吠埼南東沖~太東岬南東沖の大陸棚とその斜面30~600m深付近に34.1以下の塩分があり、その分布状況は各定線毎に様々である。また、野島埼南東定線では、塩分極小域が他の定線と異なり、沖合域にあった。

親潮系水(図4・5) 200m以深における塩分極小は、海水の重さの指標である t(シグマ-T)が26.9付近にある。そこで、t=26.9の最も浅い水深における水温と塩分の分布を図4に示すと常磐南部海域に分布している低温・低塩分水が鹿島灘沖~横芝沖の大陸棚斜面に沿うように差し込んでいることがわかる。このことから今月観測された房総海域における中層の低温・低塩分水は、常磐海域から差し込んだ親潮水であると考えられる。

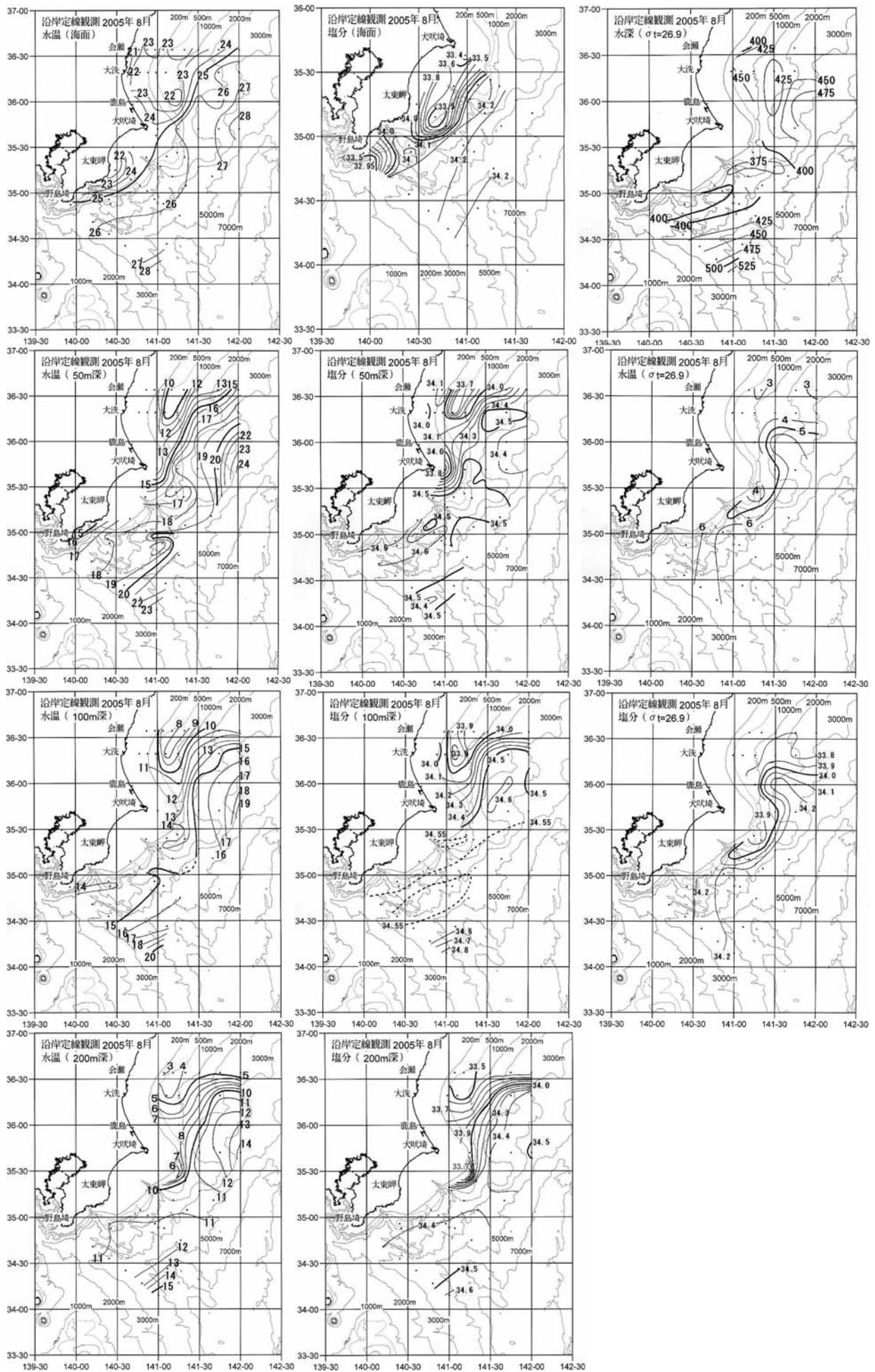


図4 水温(左図)・塩分(中央図)の水平分布と  $t=26.9$  面上の水深・水温・塩分の分布(右図)

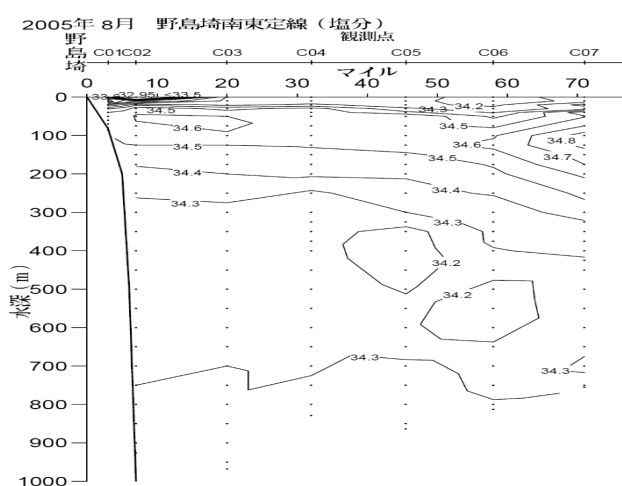
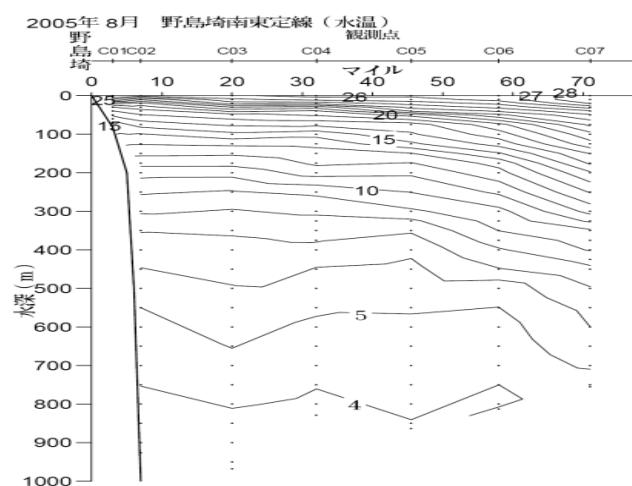
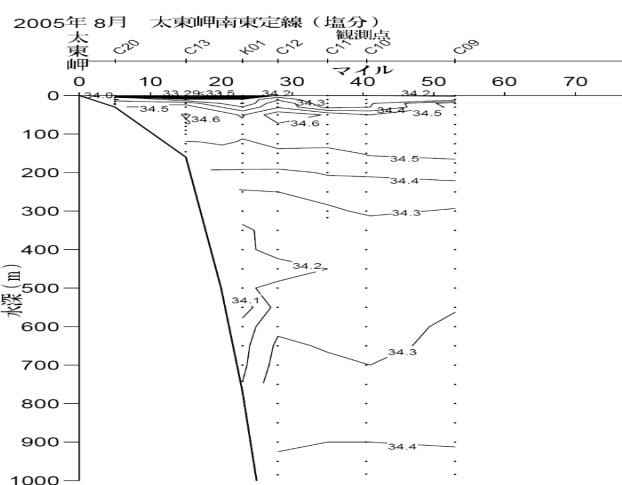
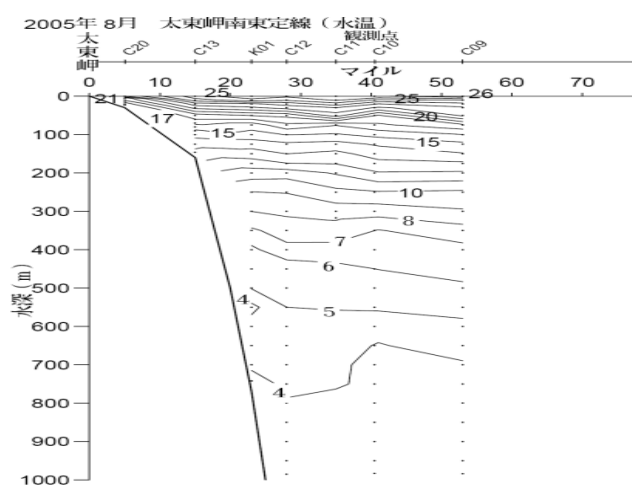
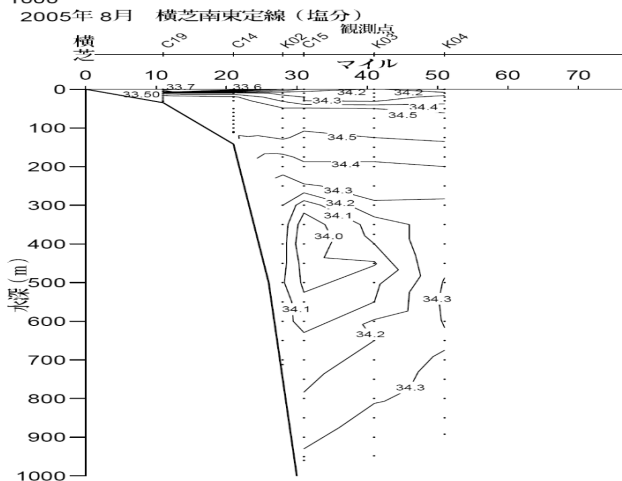
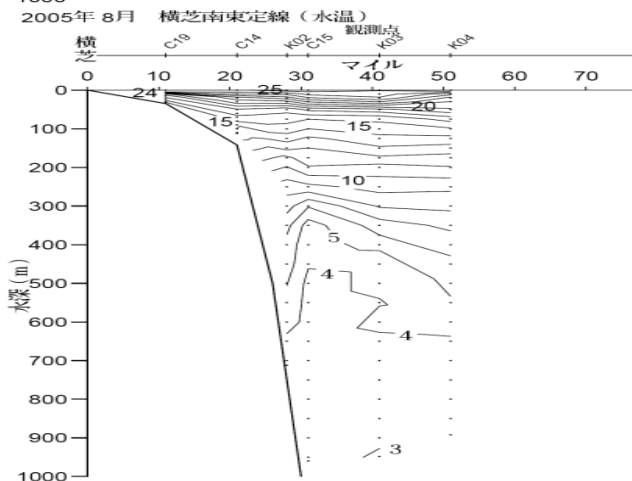
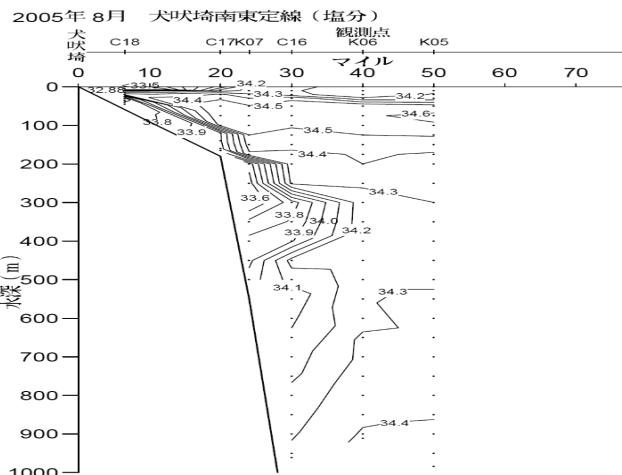
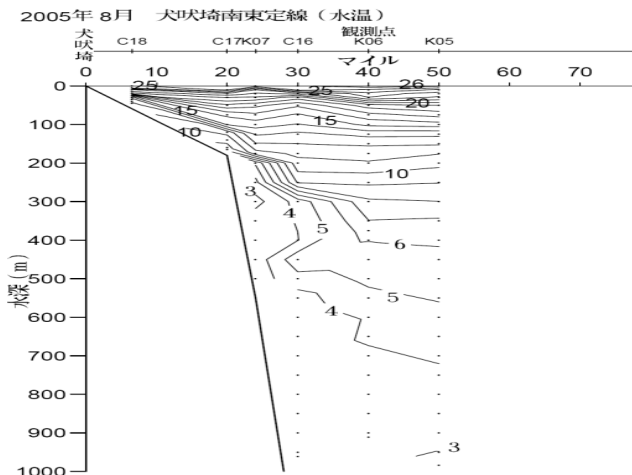


図5 水温と塩分の鉛直分布